

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:5

ICUにおける学際的チーム構築への課題  
～初めての人工呼吸器装着患者の歩行経験を通して～

酒井周平

## ICUにおける学際的チーム構築への課題 ～初めての人工呼吸器装着患者の歩行経験を通して～

旭川医科大学病院 ICUナースステーション 酒井周平

### 【はじめに】

全国ICUで積極的な早期離床がされている今日、A病院ICUでは多職種チームにより、すでに海外や国内文献で報告されている人工呼吸器装着患者の歩行を初めて経験することができた。チームには多様なモデルがあり、その状況や課題に応じてあり方は異なる。本研究は、この症例を通して私たちが目指すべき学際的チーム(以下、Interdisciplinary team)の構築への課題を明らかにすることを目的とした事例研究である。

### 【臨床経過】

60歳代、女性。既往歴は慢性腎不全、ADLは自立。細菌性肺炎のため人工呼吸器管理とCHDFを開始。全肺野にスリガラス陰影、左下葉に無気肺あり。ICU入院から離床はできておらず、3病日に鎮静剤を止めてRASS「0」、フェンタニル®のみ投与で痛みはなし。人工呼吸器(mode：A/C, FiO<sub>2</sub>：35%, PCV：12cmH<sub>2</sub>O, PEEP：8cmH<sub>2</sub>O, RR：12回/分)との同調性は良好。そこで担当医2名、看護師2名、理学療法士1名、臨床工学技士2名で多職種カンファレンスをおこない、治療方針や安静度、早期離床プロトコル基準を確認した上で歩行をした。その日以降、端座位や立位を繰り返して7病日に抜管、ICU退室後にPICS症状なく10病日に転院となった。

### 【考察】

本事例では、担当していた研究者が鎮痛・鎮静管理や人工呼吸器との同調性の確保を担い、多職種に呼びかけてカンファレンスを開催して目標を分かち合い、それぞれの専門性に基づいた役割の確認をしたことで実現した。理学療法士のICU専従化により、看護師と理学療法士は毎日カンファレンスをして早期離床に取り組んでいるが、Open-ICUのA病院では担当医と検討する機会が少ないのが現状である。Interdisciplinary teamとは、チームメンバー間に階層性がなく、それぞれが主体的に意思決定に関与して目標を共有し、プランの作成、問題の解決、任務の実行と評価までを行う、とされる。今後、チームビルディングの形成を提唱するTuckman Modelを参考に、混乱期(Storming)で生じる対立を乗り越えて強固なチームに成長できるよう、まずは日常的に医師を含む多職種カンファレンスを開催して、お互いの役割や責任などについて意見を交わす必要がある。

### 【結語】

人工呼吸器装着患者の歩行経験から、Interdisciplinary team構築には多職種カンファレンスが必要であることが示唆された。